

〈論 説〉

日本，中国，韓国における 海外パッケージツアーの比較分析

南宮 智娜

本研究は、2014年日本、中国、韓国の大手旅行会社のホームページに掲載された海外パッケージツアーを分類し、ツアーを構成する内容を比較分析した。その結果、ルートの点では、日本発ツアーは滞在型、中国発ツアーは広域周遊型、韓国発ツアーは狭域周遊型が主要ルートになり、滞在日数に関して、日本発ツアーはもっとも短く、中国発ツアーは最も長く、食事と宿泊に関する情報は、日本発ツアーが最も細かく記載されるのに対し、中国発ツアーは扱いが弱く、韓国発ツアーは日数、食事、宿泊において日本発と中国発ツアーの中間に位置する。また、3カ国からのツアーの特徴は、行先の違いによって若干の違いはあるものの、全体的な特徴は大きく変わることはない。したがって、これら3カ国のツアーの特徴は、目的国ではなく、出発国に起因するといえる。

I はじめに

パッケージツアーとは、運輸、宿泊、飲食などの異なる企業が提供するサービスの組み合わせである（鈴木、2006）。日本の旅行業法では、パッケージツアーとは記されていないが、旅行者を募集して実施する企画旅行がこれに該当する。一方、ヨーロッパ連合の旅行業法では、『運輸』『宿泊』

『運輸または宿泊に付随するものではなく、パッケージのかなりの割合を占める他の観光サービス』のうちの2つ以上の項目が事前に組み合わせられ、包括的な価格で販売される旅行」と明確に定義されている (The Council of the European Communities 1990).

パッケージツアーは、鉄道時代にトーマス・クックによって導入され、旅行者に複合的な商品を一度に購入できる利便性を提供するものである。旅行会社には旅行の安全を確保する義務があるため、パッケージツアーは旅行者に安心感を与える手段として今日まで続いている (Burkat & Medlik, 1974; Čavlek, 2006; Wong & Kwong, 2004) .

パッケージツアーは鉄道の時代に生まれたにもかかわらず、その研究は、バスや飛行機の時代から見当たる。1980年代以降、パッケージツアーの研究は、旅行者のプロフィールに着目して行われた。Thompson & Pearce (1980) は、移動手動に着目しニュージーランドにおけるツアーをコーチツアー (大型バスを利用)、キャンプツアー (ホテルの代わりにキャンプを利用)、フライドライブツアー (飛行機とレンタカーを利用) の3つのタイプに分類し、それぞれのツアーにおける旅行者のプロフィールを明らかにした。Quiroga (1990) は、スペイン、フランス、イギリス、イタリアなどヨーロッパ諸国を訪問したラテンアメリカ人旅行者のプロフィールを分析した。言い換えると、この時期の研究はどんな人が旅行するのかに力点を置かれていた。なお、旅行者の出身国が異なるものの、旅行先での旅程や異文化間の比較は行われていない。

1990年代以降、パッケージツアーの研究対象地域は、依然としてヨーロッパであるが (Enoch, 1996)、ニュージーランドや北米などの「新大陸」 (Oppermann, 1995b)、さらにはマレーシアなどのアジア国 (Oppermann, 1995a) まで拡大されている。また、日数や目的地でのルートといったパッケージツアーの内容や異文化間の比較に着目するようになった。Enoch (1996) は、イスラエル、デンマーク、イギリス発のヨーロッパ各国へのツアーのパンフレットを収集し、何日で何カ国周遊するかがツアーのテン

ポを表す重要な側面であると指摘した。また、それぞれ国のツアーの交通、宿泊、観光内容に点数を付けて評価をした。Oppermann (1995a) はマレーシアを訪れた旅行者にインタビュー調査を行い対象者の旅程を分類した。その結果、旅行者の目的および旅行の距離によってルートが異なったことを明らかにした。ビジネスや親族訪問目的の旅行者は滞在型が多い。一方、遊びを目的とする旅行者は周遊型が多くを占めた。また、旅行者の居住地からマレーシアへの距離が近い場合は滞在型が多いのに対し、距離が遠い場合は周遊型が多い傾向にあった。Oppermann (1995b) はドイツからニュージーランドと北米へのツアーの旅程を比較した。その結果、ほとんどのツアーが同じ旅程であった。また、北米へのツアーは幾つか特定の地域に行くのに対し、ニュージーランドへのツアーはすべての地域を満遍なく網羅しようとしていることを明らかにした。

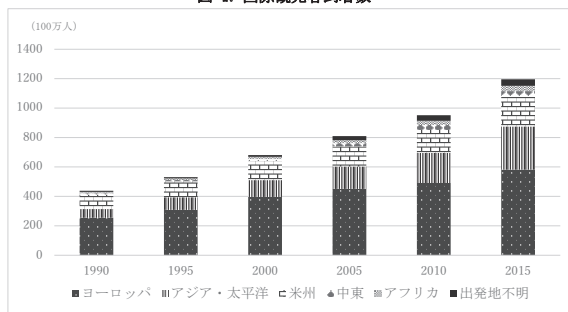
2000年代以降、パッケージツアーの研究対象地域は東アジアに移行している。박 (2006) は、韓国の大手新聞に掲載された旅行会社のパッケージツアーを比較し、各旅行会社の旅行商品の新聞紙面での配置を検討した。서ほか (2005) は、イギリス、アメリカ、日本、韓国の大手旅行会社のホームページ内容を比較分析した。その結果、航空券の予約、ホテル予約、外国語支援に関する内容において、外国のイギリス、アメリカ、日本の旅行会社のホームページには掲載があるのに対し、自国の韓国旅行会社には掲載がないということを指摘した。박 (2006) と서ほか (2005) は各国旅行会社の旅行商品を比較したが、パッケージツアーの内容自体は検討されていない。

一方、金 (2009) は、中国、韓国、台湾の大手旅行会社のホームページに掲載された日本行きツアーを比較分析した。その結果、韓国人と台湾人ツアーの訪問地が多様であるのに対し、金 (2009) とZeng (2018) は中国人ツアーの訪問地において大都市、特に東京—大阪間に集中している特徴があると明確した。張・澁谷 (2013) は、北京、台北、香港発の大手旅行会社のホームページに掲載されたツアーを整理検討した。また、ツアー商

品のルートを複数の地域をまたぐ比較的長い移動を伴う「広域型」と、一定の地域だけを周遊する「地域型」に分けて検討した。その結果、北京発のツアーは「広域型」が多く、金（2009）とZeng（2018）が指摘した東京と大阪を結び、箱根や京都を経由しながら移動するルートいわゆる「ゴールデンルート」が多い。一方、香港発、台北発のものは、「地域型」が多かった。

以上を踏まえ、これまでの研究の流れを整理すると、パッケージツアー研究の特徴としては、研究地域が英語圏や非英語圏のヨーロッパ諸国、「新大陸」諸国（Enoch, 1996; Oppermann, 1995b; Quiroga, 1990; Thompson & Pearce, 1980）からアジア諸国（Oppermann, 1995a; Zeng, 2018; 金, 2009; 張・澁谷, 2013; 徐ほか, 2005; 朴, 2006）に移行してきたことがあげられる。この傾向は図1のUNWTOによる国際観光客到着数の推移からも確認できる。世界的にみると依然としてヨーロッパ国々への訪問者数が多い。2000年代までは、米州がヨーロッパ地域の次に多く訪れる地域だったが、2005年になるアジア地域が米州地域を抜いて世界で2番目に訪問者数が多い地域となった。これまでの研究の文脈と訪問者数の推移からみるとアジア地域は観光市場において重要である。

図 1. 国際観光客到着数



そこで、本研究は、アジア地域の日本、中国、韓国相互間のパッケージツアー旅行を取り上げる。Oppermann（1995a）が指摘したように出発地と目的地の距離および旅行者の目的が旅行のルートに影響を与えることか

ら、三か国のパッケージツアーを検討することで、同じ目的になり、互いに旅行距離がほぼ同じである日本、中国、韓国三か国を研究対象とすることは妥当性があると考えられる。

Oppermann (1995b) によれば同じ出発地であっても目的地が異なるによって旅行パターンが変わったことから、これまで訪日に関する研究はすべて複数の出発地から単一目的地への旅行での考察のため（金, 2009; 張・澁谷, 2013; Zeng, 2018）、これらの研究で見出したツアーの特徴は出発地国の違いが影響しているのか、それとも目的地国の違いが影響しているのかについては疑問に残される。従い、複数の出発地と複数の目的地での考察が必要となると考えられる。

さらに、パッケージツアーの定義からにしても、実際の旅行にしても旅行体験に欠かせない飲食と宿泊など旅行関連サービスについての内容はヨーロッパ国々を対象とした研究ではみられるが（Enoch, 1996）、アジア地域での研究では全体的に見落とされている。

本研究は、以上の問題を意識しつつ、パッケージツアーを構成する「ルート」、「日数」、「飲食」、「宿泊」に着目し、日本、中国、韓国三か国相互間の6パターンのパッケージツアーの特徴を比較検討する。これら三か国は近年でも相互間の旅行者がそれぞれ上位を占める（表1）。なお、本研究は、2014年のパッケージツアーを対象とする。

表 1. 2019 年日本、韓国、中国への旅行者数順位

順位	日本への旅行		韓国への旅行		中国への旅行	
	出発国・地域	旅行者数	出発国・地域	旅行者数	出発国・地域	旅行者数
1	中国	9,594,394	中国	6,023,021	香港	2,498,155
2	韓国	5,584,597	日本	3,271,706	台湾	1,741,346
3	台湾	4,890,602	台湾	1,260,493	マカオ	1,089,311
4	香港	2,290,792	アメリカ	1,044,038	韓国	928,197
5	アメリカ	1,723,861	香港	694,934	日本	727,386

(JNTO, 2020; KTO, 2020; MCT, 2020) より作成

II 研究方法

研究方法としては、日本、中国、韓国の大手旅行会社各3社¹⁾のホームページに掲載された三か国相互間のツアーを抽出し、ツアーの情報をデータベース化し、現在の日本、中国、韓国相互間のツアーの特徴を検討した。

日本の旅行業者は、第1種、第2種、第3種、地域限定に分けられる(JTA, 2021)。インバウンド旅行の手配は、いずれの種の業者も可能であるが、アウトバンド旅行のパッケージツアーを企画し実行するのは第1種のみ可能である。

韓国では、観光振興法に基づき旅行業者を、一般旅行業、国外旅行業、国内旅行業の3種に分ける(MCST, 2021)。一般旅行業の旅行会社は、韓国人および外国人の国内外の旅行業務を扱う。国外旅行業は、韓国人の海外旅行業務を扱う。国内旅行業は、韓国人の国内旅行業務を扱う。したがって、インバウンド旅行業務は一般旅行業のみ可能であり、アウトバンド旅行業務は一般旅行業と国外旅行業が可能である。

中国では、旅行会社は各ランク付け条件によって3A、4A、5Aの旅行会社に格付けられる。各旅行会社は所属するエリアの旅行業協会に登録する(STTA, 2019)。

本研究で取り上げる旅行会社は、日本の3社は第1種、中国の3社は5A、韓国の3社は一般旅行業に位置付けられており、すべて長い歴史を持つ大手旅行会社である。国内旅行と海外旅行の両方を取り扱い、リテラーとホールセーラの両方の機能を果たす。

ホームページに掲載された情報は不定期的に更新される傾向があるため、ツアーを抽出するには条件を指定して検索する必要がある。データ検索の具体的な手順は、以下のa~cの方法をとった。

a) 日にちを指定して検索する。日本の旅行会社は2014年9月15日東京(成田・羽田)発、韓国の旅行会社は2014年9月1日ソウル(仁川・金浦)発、中国の旅行会社は2014年9月と2014年10月のすべての上海(浦東・虹橋)発を対象とする。中国においては、各ツアーの出発可能日数がひと月に2~5回であり、日本と韓国発のツアーがほとんど毎日出発可能であるのに比べるとかなり少ない。そのため、中国の場合は、特別に、2014年9月と10月発のすべてのツアーを抽出する。

b) 本研究での「パッケージツアー」とは、航空券とホテル以外に、観光

プランが含まれたツアーを指す²⁾。

c) a,bの条件で検索したツアーをすべてデータベース化する。

以上の結果、日本から中国向けのツアー20件、日本から韓国向けのツアー64件、韓国から日本向けのツアー136件、韓国から中国向けのツアー125件、中国から韓国向けのツアー24件、中国から日本向けのツアー29件を抽出した³⁾。

Ⅲ 日本、中国、韓国相互間のパッケージツアーの特徴

各ツアーの内容分析において、ツアーの旅程をより詳細に把握するため、以下のように分類した。S1は1か所に滞在し、滞在都市のみを旅行するパターン、S2は1か所に滞在し、滞在都市及びその周辺都市への日帰り旅行するパターン、M1は目的地の国の広域内で複数の目的地を旅行するパターン、M2は目的地の国の狭域内で複数の目的地を旅行するパターンになる。S1、S2が滞在型、M1、M2が周遊型である。そして旅行会社のホームページでツアーに付されている情報をもとに、食事やレストランについては、ツアーに一度でも情報が提供されていれば、情報ありに分類した。以上のように、旅行に関する最も重要なサービスである、ルート、滞在日数、食事、レストラン、宿泊に関する情報を分類した（表2）。

表 2. 日本、韓国、中国の旅行会社が提供するパッケージツアーの特徴

分類		日本→中国 (n=20)	日本→韓国 (n=64)	韓国→日本 (n=136)	韓国→中国 (n=125)	中国→韓国 (n=24)	中国→日本 (n=29)
ルート	滞在型	S1	10	36	10	22	12
		S2	7	8	25	4	0
		計	17	44	35	26	12
	周遊型	M1	1	5	7	28	9
		M2	2	15	94	71	3
		計	3	20	101	99	12
日数	3-日	7	37	42	11	0	
	4-日	12	24	84	45	8	
	5-日	1	3	5	54	16	
	6-日	0	0	0	13	0	
	その他	0	0	5	2	0	
	食事	情報有	20	64	76	110	1
情報無	0	0	60	15	23		
レストラン	情報有	17	39	6	22	0	
	情報無	3	25	130	103	24	
宿泊	情報有	20	64	136	125	6	
	情報無	0	0	0	0	18	

旅行会社のホームページより作成

1) 日本発のパッケージツアー

1- 1) 中国向けのツアー

日本発の中国向けのツアーの行先は、北京、上海のような観光客が多く訪れる都市、または、その都市周辺に集中する（表3）。

表 3. 日本から中国向けのツアー

ルート	ツアー数	旅程日数	価格（日本円）
上海	6	3~4	136,900~201,000
上海—蘇州	2	4	135,800~162,800
北京	3	4	133,800~173,000
北京—西安	1	5	159,800
大連	2	3	117,900~164,900
大連—旅順	1	3	106,800
桂林—陽朔	1	4	238,800
広州	1	4	163,800
杭州	2	4	191,800~213,800
香港—マカオ—深セン	1	4	124,800~249,800

2014年の日本旅行会社のホームページより作成

行先の組み合わせをみると、中国大陸においては、「北京—西安」と「桂林—陽朔」以外のルートすべて滞在型（17ツアー）である。こうした、滞在型のS 1とS 2ルートが全体の約9割を占める。日本の中国向けのツアーは滞在型が多いといえる。次に、ツアーの日程をみると、日数が3日または4日間が多い。5日間の場合は1件のみ、複数都市または遠方の都市をめぐる周遊型である（「北京—西安」）。

表 4. 日本から中国行きツアーの例

出発地	東京
ルート	北京
1日	東京より北京国際空港に到着 天壇公園 夕食：「北京大董烤鴨店」にて北京ダック 19：30 ホテル着 北京泊
2日	天安門広場→故宮 昼食：「鼎泰豊」にて小籠包 中国国家博物館 夕食：中国風しゃぶしゃぶ 夕食後「京劇」観賞 北京泊
3日	昼食：「梅府家宴」にて「佛跳牆」など宮廷料理 北京泊
4日	出発まで自由行動 北京国際空港より東京に出发

日本旅行会社のホームページより作成

日本から中国向けの20ツアーのうち、食事の情報について20ツアーすべては1回以上の食事について何らかの情報が記されていた。さらに17ツアー（89%）には料理名に加えて食事を行う店の名前まで記されていた。表4は、東京発の北京ツアーの例である。昼食2回、夕食2回の4回について

料理名が記されており、これらのうち3回は料理店の名前が記されている。

このほか、朝食まで「料理店名+名物料理」が記されている場合（たとえば、『海皇粥店』でのお粥の朝食をどうぞ）もあれば、食事メニューを選ぶことができる場合や、デザートが掲載される場合もある。

宿泊については、必ずホテルの名前が明記され、ホテルの部屋タイプが指定できる場合や、複数のホテルから選択できる場合もある。

最後に、観光内容をみると、一日に回る観光資源や観光施設は少なく、また、観光施設のほか、「モーニング太極拳デビュー」のような観光内容もある。

このように、日本発の中国向けのツアーは、決まった都市に滞在する傾向がある。また、一回の旅行に含まれる観光内容は少なく、ゆっくり観光する傾向が見られる。さらに、宿泊施設と食事内容に関しては、きめ細かい情報が提供されている。

1-2) 韓国向けのツアー

まず、日本の韓国向けのツアーの行先をみると、ソウル、ギョングジュ（慶州）、プサン（釜山）、済州島に集中する。そのほかソウルに近いスウォン（水原）やプサンに近いデグ（大邱）などの都市もある（表5）。

表 5. 日本から韓国向けのツアー

ルート	ツアー数	旅程日数	価格（日本円）
ソウル	28	3~4	38,800~225,900
済州島	16	3~4	34,200~173,800
ソウル+ギョングジュ	1	3	154,900~214,900
ソウル+スウォン	1	3	93,900~168,900
ソウル+スウォン+ギョングジュ	1	4	191,900~255,900
ギョングジュ+テグ+ソウル	1	5	74,200~79,200
ギョングジュ+プサン+ソウル	3	4	18,900~120,000
プサン+ギョングジュ	9	3~4	64,900~203,900
プサン+ギョングジュ+ソウル	2	3~4	69,800~122,800
チュンチョン+サムチョク+ソウル	2	4~5	78,800~178,800

2014年の日本旅行会社のホームページより作成

ルートに着目すると、「ソウル」または「済州島」向けの滞在型のS1とS2が訳7割を占める。滞在型以外は、基本的にソウルおよびその周辺都市、ギョングジュ、プサンの組み合わせである。このように日本の韓国向けのツアーの訪問先はソウルと済州島に集中し、主にこの両地域に滞在する

ともいえる。日数に着目すると、3件を除きすべて3日間または4日間の旅程である。また、4日間の場合は、3日間と同一の日程内容に「1日の自由行動」がプラスされることが多い。

食事については、日本から韓国への64ツアーすべて1回以上の食事についての情報が記されていた。さらに39ツアー（60%）には料理名に加えて食事を行う店の名前まで記されていた。中には食事メニューを選ぶことまでできる場合もある。また、朝食でさえホテルではなく特別に予約した他のレストランで食べる場合もある。さらに、宿泊については、ツアーごとにならずホテルの名前が明記されているだけではなく、ホテルが選択できる場合や、ホテルの部屋タイプが指定できるどうかの情報やバスタブの有無に関する情報が明記されている。

そして、観光内容に注目すると、一日に回る観光スポットは少ない、一般的に3日間のツアーでは、初日の夕食は店名まで明記され、2日目は朝食・昼食・夕食すべてが名物料理である場合が多い。

以上のように、日本発の韓国向けのツアーは、滞在日数が短く、滞在型が主要ルートで、食事内容と宿泊施設に関する情報の掲載度が高い。

2) 韓国発のパッケージツアー

2-1) 日本向けのツアー

韓国から日本向けのツアーの行先は、沖縄から北海道まで、東京、大阪、福岡、札幌というような都市部のみではなく、それらの都市の周辺を含む日本全土に渡って幅広く分布する（表6）。

ルートに注目すると、滞在型ツアー数は合計136ツアーのうちわずか35ツアーであるのに対し、周遊型で狭い地域を回るタイプのM2型が94ツアーもある。ツアーの日程は3・4日間が多い。

さらに、食事とホテルの内容に着目する。食事の情報について全く記されていないのは136ツアーのうち60ツアーである。食事の記載の中で料理名が書かれたものはあるが、店名まで書かれたのはわずか6ツアー。料理

日本、中国、韓国における海外パッケージツアーの比較分析（南宮）

表 6. 韓国から日本向けのツアー

ツアー名	ツアー	旅行日	価格(韓国ウォン)	ツアー名	ツアー	旅行日	価格(韓国ウォン)
韓国	1	4	114,000~1145,000	釜山-蔚山-春川-大邱-大田	1	4	1,215,000
札幌	8	1~3	114,000~145,000	釜山-蔚山-小樽-札幌	1	4	1,260,000
小樽-札幌-名古屋-福岡-札幌	1	4	1,285,000	東京-新潟	2	3~4	900,000~910,000
小樽-札幌-札幌	3	4	874,000~1145,000	東京-新潟	3	3~4	541,200~809,000
小樽-札幌-札幌-新潟	1	4	994,000	東京-新潟	1	4	720,000
釜山-蔚山-札幌-小樽	1	5	1,345,000	東京-新潟	3	3~4	715,000~900,000
釜山-蔚山-札幌-小樽-新潟	2	4	1,298,000~2,295,000	東京-新潟-札幌	1	4	815,000
釜山-蔚山-札幌-小樽-新潟-大田	1	4	844,000~1,045,000	東京-新潟-大田	1	3	1,150,000
釜山-蔚山-札幌-小樽-新潟	1	4	1,095,000	東京-新潟-大田-静冈	1	4	720,000
釜山-蔚山-札幌-小樽-新潟-福岡	1	3	545,000	福岡-札幌	1	4	744,000
釜山-蔚山-札幌-小樽-新潟-福岡-福岡	1	4	1,058,000	福岡-札幌-新潟-札幌	3	4	844,000~1,145,000
京都-奈良-大田	1	4	896,000	奈良-大田-京都	2	3~4	748,000~948,000
熊本-大田-福岡-札幌-新潟-福岡-福岡	1	4	114,000	奈良-大田-京都-神戸	1	3	960,000
熊本-大田-福岡-札幌-新潟	1	3	698,000	奈良-大田-京都-新潟	1	5	1,295,000
熊本-別府-阿蘇-福岡	1	4	148,000	奈良-大田-神戸	1	3	802,000
熊本-別府-阿蘇-福岡-阿蘇	1	4	164,000	奈良-大田-神戸-京都	1	4	948,000
奈良-熊本-阿蘇-福岡-別府	1	4	1,045,000	奈良-大田	1	4	1,199,000
口之津-熊本-阿蘇-福岡-別府-福岡	1	4	845,000	福岡-阿蘇-福岡-別府	2	3~4	648,000~744,000
札幌-札幌-小樽-札幌	2	4	1,144,000~1,145,000	福岡-阿蘇-福岡-別府	1	3	1,145,000
札幌-札幌-札幌	1	4	1,098,000	福岡-札幌-新潟-札幌	1	4	949,200
札幌-札幌	1	4	1,144,000	福岡-札幌-新潟	1	3	644,000
札幌-札幌-札幌-札幌-札幌-札幌	1	4	1,145,000	福岡-札幌-新潟-阿蘇	1	3	990,000
札幌-札幌-札幌-札幌-札幌-札幌-札幌	1	3	144,000	福岡-札幌	1	4	699,200
札幌-札幌-札幌-札幌-札幌-札幌	2	3~4	699,000~1,145,000	福岡-札幌-新潟-札幌	1	4	948,000
札幌-札幌-札幌-札幌-札幌-札幌	1	4	1,045,000	福岡-札幌-新潟-別府	4	3~4	448,000~1,050,000
神戸-伊豆-京都	1	3	1,045,000	福岡-別府-札幌-阿蘇-福岡	1	4	948,000
神戸-伊豆-京都	3	3~4	798,000~2,095,000	福岡-別府-福岡	1	3	744,000
神戸-京都-大田-奈良	2	3	718,000~798,000	別府-福岡-京都-熊本-福岡	1	4	848,000
神戸-京都-大田-別府-福岡-福岡	3	4	728,000~1,038,000	名古屋-福岡-角野-名古屋-京都	1	3	990,000
神戸-京都-奈良	1	4	798,000	名古屋-福岡-伊豆-京都	1	3	699,000
神戸-大田-京都	1	4	698,000	名古屋-奈良-白川郷-高山-京都	2	3~4	1,099,000~1,274,000
神戸-大田-京都-奈良	4	3~4	648,000~848,000	名古屋-白川郷-高山-京都	1	3~4	998,000~1,174,000
神戸-大田-京都-奈良-別府	1	4	698,000	和歌山-奈良-大田	1	5	699,000
神戸-大田-奈良	8	3~4	598,000~848,000	和歌山-奈良-大田-京都	2	3~4	748,000~948,000
神戸-大田-奈良-京都	1	3	698,000	大田-神戸-奈良	1	4	1,145,000
熊本	1	3	479,000	大田-神戸-奈良	2	3	678,000~1,048,000
熊本-熊本-福岡-福岡	1	4	1,098,000	大田-奈良	4	3~4	648,000~798,000
大田-京都-熊本-福岡	1	4	1,298,000	大田-奈良-京都	1	4	1,298,000
大田-奈良-奈良	1	4	698,000~848,000	大田-奈良-京都-名古屋-東京	1	5	1,448,000
大田-京都-奈良-京都	1	5	1,098,000	大田-奈良-神戸	1	4	898,000
大田-京都-奈良-京都-奈良	1	4	698,000	大田-奈良-京都-奈良	1	4	698,000

2014年国内旅行業協会発表のホームページより作成

名としては、会席やすきやきなどの日本食のほか、韓国家庭料理もあり、クーポン式で多様な料理の中から選択できるツアーもあった。宿泊については、ホテル名はすべてのツアーに明記されている。また、ホテル内および周辺施設も詳細に掲載される。なお、宿泊先に関しては、温泉で有名な地方（たとえば、登別、黒川）に行くツアーや、ツアーのタイトルに「温泉旅行」や「温泉付き」と書かれたものや、温泉施設に関して紹介のあるツアーが多く、全ツアーの70%を占める。韓国と中国のガイドブックを比較分析した研究によれば韓国ガイドブックの温泉、サウナ、公衆浴場などの掲載頻度は中国のガイドブックより高かった（南宮，2017）。韓国の日本向けツアーは温泉を好む傾向があるといえるだろう。

ツアーの観光内容を見ると、旅程中にできるだけ多くの都市を巡り、沢山の観光資源や観光施設を回る傾向がある。日本への到着日、帰国日も、宿泊先や利用する空港近くの観光施設を訪れる（たとえば、成田から帰国する場合には、成田新勝寺に寄ってから帰国するなど）。

以上より、韓国の日本向けのパッケージツアーは、東京・大阪などの都市を回る場合と、九州や北海道・中部地方といった特定の地域を回る二つ傾向がある。また、一回の旅行にできるだけ多くの観光資源や観光施設を

みる。そして、旅行先の食事に関しては取り扱いが弱い。しかしながら、ホテルや温泉に関心を置く傾向がある。

2-2) 中国向けのツアー

韓国から中国向けのパッケージツアーの行先は、中国全体に広く平均的に分布する。南は深セン、北は白頭山、龍井、図們、西は昆明、ラサ、西寧、東は上海、蘇州、杭州、中部は、九寨溝、成都にわたる(表7)。

表 7. 韓国から中国向けのツアー

ルート	ツアー数	日程日数	価格(韓国ウォン)
アモイ	1	4	983,300
威海	1	5	419,000
威海-煙台	2	5	369,000
九寨溝-成都	3	5~6	933,000~1493,400
杭州	1	4	993,300
杭州-黄山	5	4	553,300~653,300
香港-マカオ-深セン	6	4	751,000~1081,000
昆明	5	6	933,300~1433,000
昆明-ジャングリラー-麗江	2	6	1883,000~2283,000
昆明-大理	1	6	1,583,300
昆明-大理-麗江-ジャングリラー	2	6	1833,000~2233,000
済南	1	5	298,400
済南-北京	1	5	448,600
重慶	1	5	733,400
重慶-九寨溝-成都	1	5	1,233,400
上海	2	4	415,100~573,300
上海-黄山	1	4	663,300
上海-杭州	2	4	283,300~483,300
上海-杭州-黄山	2	4	433,300~643,300
上海-杭州-蘇州	2	4	533,300~843,300
上海-蘇州-張家界	1	5	1,283,600
上海-張家界	1	4	983,300
上海-無錫	1	4	653,300
成都-九寨溝	1	6	1,133,300
西安	3	5	653,300~1294,200
西安-蘭州-西寧-ラサ	1	8	2,483,000
西安-蘭州-敦煌-嘉峪関-トルファン-ウルムチ	1	8	2,383,000
青島	5	3	448,400~598,400
青島-威海-煙台	1	6	479,000
青島-曲阜	1	5	799,400
大連	3	3	524,000~624,000
大連-白頭山	3	5	583,300~794,000
張家界	11	5	485,100~1185,100
長沙-張家界	1	5	733,300
沈陽-白頭山	5	4	763,300~983,300
白頭山	3	5	489,000~685,100
白頭山(龍安)-遼化-丹東	1	5	509,000
白頭山-延吉	1	4	1,333,300
白頭山-延吉-長春-龍井	1	4	783,300
白頭山-長春	4	4	774,000~915,100
白頭山-龍井-図們	1	5	885,100
北京	11	3~4	283,300~933,300
北京-承德	1	4	6,833,300
北京-太原	1	4	833,300
北京-張家界	7	5	963,300~1283,300
北京-白頭山	9	4~5	833,300~1391,900
北京-白頭山-延吉	1	5	983,300
洛陽-開封-鄭州	1	5	713,300
洛陽-鄭州	1	5	743,300
鄭州	1	5	873,300

2014年の韓国旅行会社のホームページより作成

そして、ルートを見ると、周遊型が主で全体の約8割を占める。そのうち、特定地域を回るM2が大半を占めるが、広範囲周遊型M 1 (28ツアー) もあれば、滞在型S1とS2 (26ツアー) もある。また、行先のうち、白頭山

へのツアーが多くみられる（表8は北京・白頭山5日間のツアーの例）。白頭山は北朝鮮と中国の国境近くにあり、歴史的に韓国と関係がある地域である。滞在日数をみると、6日以上もあるが、4・5日が最も多い。

表 8. 韓国から中国行きツアーの例

出発地	ソウル
ルート	北京・白頭山
1日	ソウルより北京首都国際空港に到着 798大山子芸術区→「金面王朝」シヨモ観賞→ホテル着 昼食：機内食 夕食：「全聚徳」北京ダック 北京泊
2日	ホテル朝食後 天安門広場→頤和園→鳥巢→延吉へ 朝食：ホテル食 昼食：現地食 夕食：ブルコギ 延吉泊
3日	ホテルにて朝食 白頭山 朝食：ホテル食 昼食：「天門峰山荘」キノコビビンバ 夕食：韓国料理ボサム 延吉泊
4日	龍井中学校（民族詩人尹東中母校）→図門国境地帯→北京 朝食：ホテル食 昼食：現地食 夕食：機内食 北京泊
5日	明十三陵 北京首都国際空港よりソウルに出発 朝食：ホテル食 昼食：しやぶしやぶ

韓国旅行会社のホームページより作成

次に、食事とホテルをみると、食事については、約9割のツアーに何らかの情報が載せられていた。しかし、店名までの記載についてはツアー総数のうち2割も満たさない。なお、表8に示したツアーのように、韓国料理の食事を含むツアーが多く、韓国料理が一回以上あるツアーが7割ある。宿泊については、すべて泊まるホテルの名前の記載がある。

観光内容は日本向けツアーと同様に一回にできるだけ多くの観光スポットを回る傾向にある。

以上より、韓国の中国向けパッケージツアーの行先は幅広く、中国全土に広く分布し、一か所滞在のS1、特定地域を巡るM2、広範囲を巡るM1など多様なルートがある。また、行先のうちで、特に、韓国と歴史的に関りのある東北地方の掲載が多くみられる。さらに、食事内容においては、中華料理より韓国料理の掲載が多い傾向にある。

3) 中国発のパッケージツアー

3-1) 韓国向けのツアー

中国から韓国向けのパッケージツアーの行先は、ソウル、済州島、プサンに限られる（表9）。行先の組み合わせをみると、ソウルを中心に地方の都市との組み合わせが多い。ルートを見ると、中国発韓国行きは、滞在型と周遊型が均等に配置されている。滞在型はS1が最も多く12件、次いで、周遊型のM1が多い（9件）。滞在型に含まれるS2タイプは見られない。ツアーの日数は、基本的に4、5日間であり、5日が最も多い。

表 9. 中国から韓国向けのツアー

	ツアー数	旅程日数	価格（中国元）
ソウル	6	4～5	2,850～3,899
ソウルーサムチョク	2	4～5	2,450～2,700
ソウルー済州島	7	5	3,299～6,699
プサンー済州島ーソウル	1	5	4,100
済州島	7	4～5	2,299～3,299
済州島ープサン	1	5	4,030

2014年の中国旅行会社のホームページより作成

さらに、食事内容についての記載は、基本的に「含む」「含まない」「ご自分で解決」の表現に分けられる。料理内容が明記されたツアーは1例しかない。料理店まで記載のあるツアーはみあたらない。宿泊先については、単に「ホテル」と記載されるか、「ビジネス型ホテル」「韓国のランクで4つ花タイプ」のように、ホテルのグレードを表す記載も見られる。

最後に、ツアーの内容をみると、免税店、化粧品売り場、高麗人参売り場のようなショッピングができる場所が多い。

3-2) 日本向けのツアー

中国から日本向けのツアーの行先は、沖縄、北海道、九州地方や、東京と京都・大阪をつなぐ、ゴールデンルートに集中する（表10）。ルートを見ると、滞在型のS1はなく、滞在型のS2型の「沖縄」と「大阪-奈良-京都」以外のルートは、すべて周遊型でそのうちM1が最も多く、よって、一回の旅行でできるだけ多くの都市を巡る傾向がある。また、ツアーの日数は比較的に長く、6日間のツアーがもっとも多く18ツアー、8日間のツアーもある。

日本、中国、韓国における海外パッケージツアーの比較分析（南宮）

表 10. 中国から日本向けのツアー

ルート	ツアー数	総乗員数	価格(中国元)
沖縄	4	4~5	4,900~9,300
札幌-東京	1	6	11,800
札幌-函館-小樽-富良野	1	5	9,699
鹿児島-桜島-阿蘇-熊本-福岡	1	5	5,900
大阪-京都-伊豆-東京	1	6	9,399
大阪-京都-長野-富良野-東京	1	6	7,599
大阪-京都-箱根-東京	4	6	6,399~8,599
大阪-京都-箱根-東京-札幌	1	8	12,800
大阪-京都-富士山-東京	1	6	5,999
大阪-京都-名古屋-箱根-富士山-東京	1	6	11,000
大阪-京都-名古屋-白川郷-富士山-東京	1	6	7,150
大阪-奈良-京都	1	5	5,800
大阪-奈良-京都-富士山-東京	1	6	5,680
大阪-名古屋-京都-奈良-箱根-東京	3	6	6,800~9,300
大阪-名古屋-箱根-東京	1	6	6,580
東京-箱根	1	4	3,580
東京-箱根(富士山)	1	5	10,800
東京-箱根-京都-大阪-名古屋	1	6	8,100
東京-箱根-富士山-京都-大阪	1	6	6,999
名古屋-札幌-函館-東京	1	6	9,699
名古屋-白川郷-高山-東京-箱根-豊後-伊勢-大阪-京都	1	8	11,200

2014年の中国旅行会社のホームページより作成

食事内容に関しては、表11のツアーのように、韓国行きのツアーと同様「含む」「含まない」「ご自分で解決」という表現で記載される。食事の内容が記されたツアーはわずか5ツアー（17%）。店名まで明記したツアーはみあたらない。なお、料理の内容について記載のあるツアーの料理は、すべて日本料理である。ホテルについては、ホテル名ではなく、「中国の4つ星ホテルに相当」のようにホテルのグレードを示す。

表 11. 中国から日本行きツアーの例

出発地	上海
ルート	大阪・京都・箱根・東京
1日	上海より成田国際空港に到着 朝食・昼食・夕食 ご自分で解決 成田泊(四星級ホテル)
2日	皇居→都庁展望台→自由行動 朝食：含む 昼食・夕食 ご自分で解決 東京泊(四星級ホテル)
3日	東京より箱根に出発 仲見世通り(約1時間)→秋葉原電気免税店(自由ショッピング)→ 箱根国立公園→ホテルに着 朝食・昼食・夕食 含む 箱根泊(四星級ホテル)
4日	富士山五合目(約30分)→平和公園(約40分)→ホテルへ移動 朝食・昼食・夕食 含む 浦郡泊(四星級ホテル)
5日	京都より大阪に出発 金閣寺(約30分)→船岡散策(約20分)→八坂神社(約20分)→ 大坂城(約40分)→心斎橋、道頓堀自由ショッピング(約1時間) 朝食・昼食 含む 夕食：ご自分で解決 大阪泊(四星級ホテル)
6日	関西国際空港より上海に出発 朝食：含む 昼食・夕食 ご自分で解決

ツアー商品調査より作成

ツアー内容をみると、秋葉原免税店電気屋、銀座の三越、心斎橋など有名なショッピングエリアが多く、ショッピングエリアでは、必ず1時間以上の自由行動時間が設けられていることから、ショッピングを重視する傾

向が強いといえる。

IV 考察

以上の日本、中国、韓国相互間のツアーの特徴をまとめると、日本から韓国と中国向けのツアーの日程は3・4日間で、どちらも少数の都市への滞在型S1が主であり、観光内容は少ない。また、ホテルにおいては名前が明記され多様な選択が可能である。食事に関しては食事の有無だけでなく、その内容まで明記されている。

韓国発のツアーを見ると、日本向けの日程は3・4日間で中国向けは4・5日間である。両方とも観光内容が日本に比べると多く、日本向けと中国向けツアー両方は周遊型M2が主である。ホテルにおいては両方ともホテル名が明記されている、そのうち日本向けツアーはホテルの周辺で利用可能な施設の掲載もある。食事においては両方とも食事の有無だけでなくその詳細も明記されている。同じ行先の日本において韓国発は中国発より温泉の記載が多いことと、中国発のツアーではみられない韓国と歴史的関連がある行先「対馬」があること、同じ行先の中国向けツアーでは韓国発は日本発では見当たらない白頭山行きツアー内容が多くみられる。

中国発のツアーの日程は長く（韓国向け4・5日間、日本向け6日間）、ホテルについてはグレードのみ明記し、食事内容の掲載はなく食事の有無だけ明記している。日本向けは周遊型特にM1が主で韓国向けは滞在型・周遊型である。

以上より、3カ国からのツアーの特徴は、行先の違いによって若干の影響を受けるものの、全体的な特徴は、行先によって大きく変わることはなかった。したがって、これら3カ国のツアーの特徴は、目的国ではなく、出発国に起因するといえる。

このことについて、日本の観光庁（JTA）および韓国の統計情報サービス（KOSIS）のデータによって検討する。まず、2014年訪日外国人消費動

向調査（表12）によれば、韓国人旅行者と中国人旅行者の特徴の違いは、韓国からの旅行者では、「宿泊」が最も高く（31.7%）、次いで「ショッピング」（26.0%）、「飲食」（18.3.2%）となっている。出費において宿泊と食事が同等に重要視する傾向は、韓国発ツアーはすべてホテル名の掲載があることや食事内容の掲載割合が高いことから確認できる。中国からの旅行者では、「ショッピング」が最も高く（52.4%）、次いで「宿泊」（24.2%）、「飲食」（9.7%）と続く。旅行における出費の半分以上を買物に充てることは、中国発ツアーの内容に免税店や化粧品店などショッピングする場所の掲載や、ショッピングエリアでは1時間以上の自由時間を設ける傾向からも確認できる。

次に、2014年韓国における外国人旅行者の動向調査（表13）によれば、日本からの旅行者の場合、「出発前費」（航空券、宿泊費、食費を含む団体旅行の見積もり滞在国・地域で支払った費用）が支出総額に占める割合が最も高く（47.1%）、次いで「ショッピング」（43.5%）、「飲食費」（5.5%）となっている。中国からの旅行者の場合、「ショッピング」が最も高く（71%）、総支出の7割以上を占め、次いで「出発前費」（26.2%）、「飲食費」（2.0%）と続く。これは、前述の中国人の日本滞在中の消費傾向と一致する。

表 12. 2014 年における訪日旅行者の 1 人当たりの支出額（観光・レジャー目的）

分類	韓国人 (円)	(%)	中国人 (円)	(%)
宿泊	26,264	31.7	64,988	24.2
買物	21,524	26.0	140,398	52.4
飲食	15,125	18.3	25,918	9.7
交通	7,671	9.3	17,738	6.6
娯楽	7,509	9.1	9,426	3.5
その他	4,682	5.7	9,550	3.6
総計	82,775	100.0	268,018	100.0

JTA(2015)より作成

表 13. 2014 年における訪韓パッケージツアー旅行者 1 人当たりの平均消費額

分類	日本人 (米ドル)	(%)	中国人 (米ドル)	(%)
出発前	487	47.1	469.3	26.2
買物	449.3	43.5	1271.3	71
飲食	56.8	5.5	36.2	2.0
交通	20.1	1.9	7.5	0.4
娯楽	7.1	0.7	0.7	0.0
その他	12.9	1.2	6.4	0.4
総計	1033.2	100.0	1791.4	100.0

KOSIS (2021) より作成

V おわりに

本研究では、2014年における日本、中国、韓国相互間のパッケージツアーの特徴を検討した。その結果、海外旅行パッケージツアーにみられる特徴は、目的地より出発国の影響を受けていることが明らかになった。また、三か国のパッケージツアーの文化的側面については、訪れる観光スポットと食事の選好に文化的影響が見られた。

本研究の意義は、先行研究では見当たらない複数の出発地と複数の目的地を対象に、日本、中国、韓国相互間の6パターンのパッケージツアーの特徴を検討したことにある。同じ目的とほぼ同じ距離にもかかわらず、これら三か国発のツアーには相違点が見られた。このことから、三か国のツアーの特徴は、距離と目的からの影響は少なく、距離と目的以外の要因を検討する必要がある。

三か国におけるツアーの相違に与える影響要因を解明するには、三か国の旅行会社による旅行商品の造成過程と手配方法といった流通経路の違い、三か国旅行者の需要の違い、国際観光に関する政策が与える影響などの考察も必要である。これらの課題のうち流通経路に関する考察は別稿 Nangong & Yokoyama (2023) で考察した。その他における考察は今後の課題にしたい。

付記

本稿の骨子は、2015年日本地理学会春季学術大会（2015年3月、於日本大学）、2018年New Wave International Student and Early Career Conference（2018年5月、於カレル大学）で発表した。

注

- 1) 日本は、JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、韓国は、Hana Tour, Mode Tour, Lotte tour, 中国は、中国国旅、中青旅、中国旅行社。

- 2) 日本の場合、「パッケージツアー」には「観光付きパッケージツアー」、「フリープラン（航空券+ホテル、自由行動或いはオプションツアー）」がある。「フリープラン」もパッケージツアーの枠に入る。韓国の場合、ツアーは「パッケージ（패키지）」、「airtel（에어텔）（航空券+ホテル、自由行動或いはオプションツアー）」に分けられる。中国の場合、ツアーは「団体旅行」、「自由行（航空券+ホテル、自由行動或いはオプションツアー）」に分けられる。それぞれ国のパッケージツアーに関する分け方が異なるため、日本の場合、「観光付きパッケージツアー」、韓国の場合は「パッケージ（패키지）」、中国の場合は、「団体旅行」という条件で検索することによって「パッケージツアー」の内容がほぼ同じになる。
- 3) 抽出した中国発ツアーの数が日本・韓国発に比べ極めて少ない理由は、ツアーの旅程と観光内容が同じであっても利用可能なホテルや航空便一つでも違うだけで新たなツアーとみなす日本・韓国発のツアーに対し、中国発のツアーは一つのツアーとみなすためツアー全体の数が日本・韓国発より少ない。

文献

- 金 玉実 (2009) . 日本における中国人旅行者行動の空間的特徴. 地理学評論, 82, 333-345.
- 鈴木涼太郎 (2006). パッケージツアー造成過程の合理化とその限界. 立教観光学研究紀要, 8, 33-44.
- 張 娜・澁谷鎮明 (2013) . 訪日パッケージツアー商品から見る華人観光客の訪問地と観光ルート. 貿易風, 8, 223-242.
- 南宮智娜 (2017) . 韓国と中国の旅行ガイドブックにみる東京の観光名所の出現頻度と空間分布. 地理学評論, 90 (4), 348-362.
- 서 철현・이 현동・김 창섭 (2005) . 여행사 홈페이지 콘텐츠의 국가간 비교연구. 관광연구, 20 (2) , 35-54. (韓国語)
- 박 시사 (2006) . 동계 패키지여행상품 신문광고 분석 : 동아일보, 조선일보 여행상품광고 분석을 통해서. 관광학연구, 30 (4) , 151-170. (韓国語)
- Burkat, A. J., & Medlik, S. (1974) . *Tourism: Past, present, and future*. Heinemann.
- Čavlek, N. (2006). Travel and tourism intermediaries. In L. Dwyer & P. Forsyth (Eds.), *International handbook on the economics of tourism* (pp. 155-172) . Edward Elgar Publishing.
- Enoch, Y. (1996) . Contents of tour packages a cross-cultural comparison. *Annals of Tourism Research*. 23 (3) , 599-616. doi: [10.1016/0160-7383\(96\)00001-1](https://doi.org/10.1016/0160-7383(96)00001-1)

- Japan National Tourism Organization (JNTO) (2020) . *Statistical data by month and year*.
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html
- Japan Tourism Agency (JTA) (2015) . *Survey of Foreign Visitors' Consumption Trends in Japan*.
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/syuhityousa.html>
- Japan Tourism Agency (JTA) (2021) . *Travel Agency Act*.
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/ryokogyoho.html>
- Korea Tourism Organization (KTO) (2020) . *National statistics*.
<https://kto.visitkorea.or.kr/viewer/view.kto?id=68517&type=bd>
- Korean Statistical Information Service (KOSIS) (2021) . *Survey of foreign visitors' consumption trends in South Korea*. Retrieved June 15, 2022, from
https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=1113&tblId=DT_113_STBL_1027500&vw_cd=MT_ZTITLE&list_id=314_31402_002&scrId=&seqNo=&lang_mode=ko&obj_var_id=&itm_id=&conn_path=MT_ZTITLE&path=%252FstatisticsList%252FstatisticsListIndex.do
- Ministry of Culture and Tourism of the People's Republic of China (MCT) (2020) . *Ministry of Culture and tourism 2019 Annual National Travel Agency Statistical Survey Report*.
http://zwgk.mct.gov.cn/zfxgkml/tjxx/202012/t20201204_906493.html
- Ministry of Culture, Sports and Tourism (MCST) . (2021) *Enforcement Decree of the Tourism Promotion Act*.
<https://www.law.go.kr/LSW/eng/engLsSc.do?menuId=2§ion=lawNm&query=%EA%B4%80%EA%B4%91%EC%A7%84%ED%9D%A5%EB%B2%95+%EC%8B%9C%ED%96%89%EB%A0%B9&x=0&y=0#liBgcolor11>
- Oppermann, M. (1995a) . A model of travel itineraries. *Journal of Travel Research*, 33 (4) , 57-61. doi: [10.1177/004728759503300409](https://doi.org/10.1177/004728759503300409)
- Oppermann, M. (1995b) . Comparative analysis of escorted package tours in New Zealand and North America offered in Germany. *Progress in Tourism and Hospitality Research*, 1, 85-98.
- Quiroga, I. (1990) . Characteristics of package tours in Europe. *Annals of Tourism Research*. 17 (2) , 185-207. doi: [10.1016/0160-7383\(90\)90083-4](https://doi.org/10.1016/0160-7383(90)90083-4)
- Shanghai Tourism Trade Association (STTA) (2019) . *Shanghai A-class Travel*

- Agency List*. <http://www.shtour.org/n441eK9616H>
- Thomson, C. M. & Pearce, D. G. (1980) . Market segmentation of New Zealand package tours. *Journal of Travel Research*, 19 (2) ,3-6. doi: [10.1177/004728758001900201](https://doi.org/10.1177/004728758001900201)
- The Council of the European Communities (1990) . Council Directive of 13 June 1990 on package travel, package holidays and package tours. <https://eur-lex.europa.eu/eli/dir/1990/314/oj> (accessed 09 November)
- World Tourism Organization (UNWTO) . (2020) . International Tourism Highlights. <https://unwto-ap.org/document/unwttopublicationsjp/>
- Wong, C. S., & Kwong, W. Y. Y. (2004) . Outbound tourists' selection criteria for choosing all-inclusive package tours. *Tourism Management*, 25 (5) , 581-592. doi:[10.1016/j.tourman.2003.06.002](https://doi.org/10.1016/j.tourman.2003.06.002)
- Zeng, B. (2018) . Pattern of Chinese tourist flows in Japan: a Social Network Analysis perspective. *Tourism Geographies*, 20, 810-832.
- Nangong, Z., & Yokoyama, S. (2023) . Package Tour Distribution Channels of Major Japanese, Chinese, and South Korean Travel Agents. *Journal of Quality Assurance in Hospitality & Tourism*, 1-23. doi: [10.1080/1528008X.2023.2294922](https://doi.org/10.1080/1528008X.2023.2294922)

